

報道関係各位

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

## 「想うベンチ」プロジェクト、大阪・関西万博の会場へ！ ～ベンチ16台を設置、地域とつながる府民ライターの記事も公開～

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：荒木直也、以下H20）は、大阪府との包括連携協定に基づいて進める「大阪 森の循環促進プロジェクト」の一環として、「想うベンチ 一いのちの循環」に取り組んでいます。大阪・関西万博の運営参加特別プログラム「Co-Design Challenge」にも採択されており、大阪府内の多様な事業者や地域住民との共創を通じて、林業のサプライチェーン全体の活性化と、長期的な視野で需要や関係人口の創出を目指しています。

H20はこのたび、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の「静けさの森」エリアに完成した16台のベンチを設置しました。大阪府産の木材を使用し、府内の製材所等の事業者とともに製作したものです。また、府民ライターによるウェブメディアでの発信も開始しており、万博来場者に向けて「いのちの循環」への想いをつなぎます。

※プロジェクトの詳細はこちらをご覧ください。<https://omoubench.jp/project/>

### 【ベンチについて】



ベンチのデザインは、本プロジェクトの趣旨にご賛同いただいた服部滋樹氏、佐野文彦氏、辰野しづか氏、松井貴氏の4名と協働。一等材から現状ではパルプとして利用される木材まで、さまざまな木材を活用した3種類のデザインが生まれました。ベンチに取り付けた二次元コードから、デザインに込められた想いをお伝えします。大阪・関西万博終了後は地域にベンチを引き継ぎ、新たなつながりを生む交流の場として活用します。



松井貴氏「TREE」



辰野しづか氏「C/D Bench」



佐野文彦氏「FELLET」

### 【WEBメディアについて】



公募で選定した大阪府民（在勤・在学の方含む）のライター25名と、WEBメディア「想うベンチ 一いのちの循環」を運営。実際に企画や取材、執筆などの活動を行い、3月から記事の公開も始まりました。日々の暮らしの中で感じる「いのち」をテーマに、各々の視点で記事を製作。大阪府民の目線で地域の魅力を発信します。<https://omoubench.jp/>

＜報道関係者お問い合わせ先＞

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL06-6367-3181

## 【参考資料】

### 「大阪 森の循環促進プロジェクト」について

H2O グループにおけるサステナビリティ経営の取り組みのなかには、重点テーマの1つ「豊かな『地域の自然』を守り、引き継ぐ」があります。「大阪 森の循環促進プロジェクト」は、その一環として、大阪府との包括連携協定に基づいて進められています。林業の現場から売り場まで、サプライチェーン全体を巻き込み、需要や関係人口の創出を含めた、長期的な視野でのプロジェクトを目指しています。2022年には、H2O と阪急阪神百貨店の新オフィスへの移転に際し、社員が自由に集いコミュニケーションをとれるコラボレーションエリアに設置する机を大阪・泉州の森の間伐材を用いて製作。それに合わせて、社員向けの体験学習を行い、「森の循環」の中で小売業として何ができるか、学びと実践を通して考え続けています。

詳細については、下記 URL からご覧ください。

<https://www.h2o-retailing.co.jp/ja/sustainability/theme-03/forest.html>



森での体験学習の様子



オフィスに設置する机を製作する様子

### 運営参加特別プログラム「Co-Design Challenge」について

2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の運営参加特別プログラム。大阪・関西万博を契機に、様々な「これから日本のくらし（まち）」を改めて考え、多彩なプレイヤーとの共創により新たなモノを万博で実現するプロジェクトです。すでに販売されている物品・サービスの提供ではなく、これから開発を行うものを貸与・提供する点が特徴。公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会が設置したデザイン視点から大阪・関西万博で実装すべき未来社会の姿を検討する委員会「Expo Outcome Design Committee」監修のもと生まれたプログラムで、22 件が選定されました。

<https://www.expo2025.or.jp/co-creation-index/co-design-challenge/>



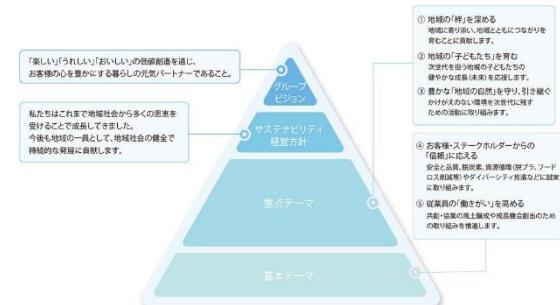
Co-Design Challenge

ロゴマーク

### エイチ・ツー・オー リテイリンググループの「サステナビリティ経営方針」について

H2O グループは、「地域住民への生活モデルの提供を通して、地域社会になくてはならない存在であり続けること」を経営理念としており、地域のみなさまとのつながりは、グループにとって大切な財産です。私たちはこれまで地域社会から多くの恩恵を受けることで成長してきました。今後も地域の一員として、地域社会の健全で持続的な発展に貢献します。2021 年より「地域社会への貢献」を柱にした 3 つの重点テーマと 2 つの基本テーマをグループの「重要課題（マテリアリティ）」と位置づけ取り組みを推進しています。詳細については、「統合レポート 2024」をご覧ください。

[https://www.h2o-retailing.co.jp/ja/library/report/main/017/teaserItems2/00/linkList/00/link/H2O\\_integrated\\_report2024.pdf](https://www.h2o-retailing.co.jp/ja/library/report/main/017/teaserItems2/00/linkList/00/link/H2O_integrated_report2024.pdf)



## 大阪・関西万博におけるエイチ・ツー・オー リテイリンググループのコミットメント

H2O グループは、大阪・関西万博を関西地域とともに成長し、未来を創造する絶好の機会と捉えています。長年、関西地域のお客さまに支えられてきた私たちだからこそ、地域への貢献は私たちの使命です。大阪・関西万博を単なる一過性のイベントとして終わらせるのではなく、その先の未来を見据え、地域社会とともに「いのち輝く未来社会」を創造したいと考えています。

そのために、当社グループでは「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創パートナーとして、地域社会との連携を深め、サステナビリティ経営方針に掲げる「地域の絆」「地域の子どもたち」「地域の豊かな自然」をテーマにした取り組みを推進いたします。当社グループは、長年、関西地域を中心に事業を展開し、そして地域に育てられてきました。大阪・関西万博を通した多様な取り組みを通して会期終了後も引き継がれるソフトレガシーを当社グループ内はもちろん、連携する自治体・企業・NPOとも一体となり創出し、地域と未来をつないでいきたいと考えています。

私たちは、地域社会の一員として、大阪・関西万博の成功に貢献するとともに、持続可能な社会の実現に向けて、これからも積極的に取り組んでまいります。

## 大阪・関西万博における当社グループの取り組み

当社では、サステナビリティ経営方針に掲げる「地域の絆」「地域の子どもたち」「地域の豊かな自然」をテーマにした取り組みを推進いたします。

### ① 「地域の絆を深める」

グループ会社のエイチ・ツー・オー商業開発では、会期中、大阪・関西万博会場内にて「フードトラック」を出店し、大阪産(もん)食材を一部に使用したさまざまなメニューで、国内外から来場される方々に日本食の美味しさや日本文化の魅力を発信します。

### ② 「地域の子どもたちを育む」

当社およびグループ会社の阪急阪神百貨店では、未来社会ショーケース事業出展「ジュニアSDGs キャンプ」に協賛・参加し、次世代を担う子どもたちに環境保全の重要性をさまざまな体験を通して伝え、持続可能な社会の実現に向けた人材育成を目指します。

### ③ 「豊かな地域の自然を守り引き継ぐ」

当社では、「運営参加サプライヤー」として大阪府内の森の循環を促進する「想うベンチ」プロジェクトを運営しています。「Co-Design Challenge プログラム」にも採択された本プロジェクトでは、大阪産木材を使用したベンチを大阪・関西万博会場に設置し、来場者に憩いの場を提供、会期終了後は大阪府下の地域にベンチを引き継いでいく予定です。また、当社グループ従業員が「EXPO グリーンチャレンジ」に参加し、脱炭素行動を積極的に推進することで、地域社会の環境負荷低減に貢献してまいります。

さらに、阪急阪神百貨店では、高い情報発信力を生かし、「PR サプライヤー」として、大阪・関西万博における広報・プロモーションに協力するほか、会期中海外から来店される方々に人・環境・サービス・情報におけるインフラを整備することを通して地域の魅力を高めることに寄与いたします。

これらの活動を通じて、大阪・関西万博の成功に貢献するとともに、会期終了後も継続的に地域社会に貢献できるソフトレガシーの創出を目指してまいります。

なお、当社の具体的な取り組みについては、こちらのページに順次掲載していく予定です。